

会 議 録 (要点筆記)

会 議 名	米原市特別職報酬等審議会
開 催 日 時	令和6年10月9日(水) 午後6時54分～午後7時58分
開 催 場 所	米原市役所本庁舎3階 会議室3-A
出席者および欠席者	出席者：井口貢委員(会長)、清水啓子委員、戸田互委員、 野一色真理委員、東野孝委員、六坊豊委員 [事務局]要石副市長、宮川総務部長、 総務課：小島課長、吉井補佐、小川 欠席者：なし
議 題	米原市議会の議員報酬の額について
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	<ul style="list-style-type: none"> ・米原市報酬等審議会の会長は井口貢委員とする。 ・米原市報酬等審議会の会長職務代理者は東野孝委員とする。 ・次回の審議会に以下の資料の提出を求め、審議を深める。 <ul style="list-style-type: none"> 県内各町の報酬額について 類似団体の報酬額について 県内各市の財政状況について 議会の詳細な活動内容について 議員の災害時の役割について 議員の兼業の状況について 国、県、市の職員の給与の上昇率について
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 副市長あいさつ 3 委嘱状交付 4 自己紹介 5 会長の選出 事務局から会長の選出方法について委員に諮ったところ、委員から事務局一任の声があり、事務局案として、井口貢委員の会長選出について委員に諮り、承認された。 職務代理者については、会長から東野孝委員を指名し、委員に諮ったところ、承認された。 6 諮問書の手交 諮問事項：米原市議会の議員報酬について 副市長から会長へ諮問書が手交された。 7 審議事項 米原市議会の議員報酬の額について 資料に関して事務局から説明を行った後、各委員から質疑や

	<p>御意見をいただいた。</p> <p>(詳細説明略)</p> <p>委員：県内各市の状況はあるが町の状況は分からないか。また、滋賀県と奈良県は状況が似ていると聞く。人口が同規模の自治体の状況は分からないか。</p> <p>事務局：次回の会議で資料提供する。</p> <p>会長：併せて、各市の財政状況がわかる資料を提示いただきたい。</p> <p>事務局：次回の会議で資料提供する。</p> <p>委員：議員報酬が低いということだが、議員は一年間どれくらい働いておられるのか。市民のため、市政のために、下調べをしてよりよい意見を言っているのであれば、議員報酬は上げるべきだと思う。一般質問でも、もっと現状を知った上で質問されなければならないと思う。何も調べない状態で質問されることはおかしいと常日頃思っている。市民から選ばれた立場として、日々熱を入れて4年間頑張っていただけなのであれば報酬が上がっても仕方ないと思う。</p> <p>会長：議員の活動が我々市民には明確に分からないということなので、その辺の分かる資料を準備されたい。広報で活動報告がなされてはいるが、もっと深い内容を知りたいということなので、次の会議では、もう少し詳しく提示していただきたい。</p> <p>事務局：次回の会議で資料として提示したい。</p> <p>会長：議員によって働きが違って、特別職の公務員であるので報酬に差をつけることはできない。均一にしなければならないので、総合的に捉えながら、我々がそのことを認識した上で上げるか、現状維持か、下げるかの判断の基準にできればよいと思う。</p> <p>委員：公務的に会議等はやられていて、公務としての仕事はしっかりやられていると思う。議員は市民の大事な一票をもらって当選されている方なので、やられていることは広報で出されているが、市民が議員の顔を見ることが少ない。市民としては、市民のためにどういうことをしてくれているのか分からない。会議以外に行っていることが分かるようなものがあればよい。議員によっては個人の資質もあり、いろいろな声を聞くことがある。</p> <p>近年、日本だけでなく世界的に自然災害が増えてきているが、そういったときに議員がどういう役割を果たしてくれるのか気になる。議員によって役職が分かれていると思うので、そ</p>
--	---

の辺が分かれば教えていただきたい。

中身が分からないのに指摘していることもあると思う。選挙の時にはお願いしますと言っておきながら市内の状況を把握できていないのはどうかと思う。

今は、米原市の議員の年齢層が高く、若い世代の人が出てきていない。それが報酬額が原因かどうかは分からないが、子育て世代の人には少し厳しいと思うので、報酬額も影響しているのではないかと思う。

議員の中には兼業されている方もいると思うので、その比率を教えていただきたい。

会長：議員は公務員でも特別職なので兼業しても良いが、今あったように若い人が他の職を持ちながら議員をしようと思うことは、現実問題としてなかなか難しい。持っている職が、例えば名誉職的な立場であると、収入の格差が出てくるなど、小さいまちだと相対的に年配の方に集中してしまうことがあると思う。先ほど言ったように、一律の報酬になっているので、若い人がプロパーの形で議員をやっているようにすることが理想かもしれないが、市によって財政状況に違いがあるので、常に両者の兼ね合いを考えていくことが大事だと思う。理想から言えば若い人たちが頑張って議員になれるような報酬があればよいと思うが、相対的に若い人よりも高齢者が、議員になって、名誉職のような形もあるので、相対的にうまく勘案できるような形で報酬は考えるべきかもしれない。

委員：議員報酬に政務活動費は含まれているか。

事務局：含まれていない。年間で180,000円となっており、使い道についてはウェブサイトで公表している。

委員：選挙以降、一度も顔を見たことがない議員がいる。活動報告を新聞にして配っている議員もいるが、その他は何をされているのか分からないので、その辺を教えていただくと議員報酬の目安になると思う。

米原市は女性議員がいない。女性は子どもがいるとなかなか出てこれないので、活躍するのは難しい。男性の中に女性が一人で入っていくのは勇気がいることなので、女性議員が増えるような方策を立てていただくと、米原市の活動が女性目線で進むのではないかと思う。

委員：基本的に議員報酬を上げることは賛成である。もう一つの指標として国の特別職の上昇率であるとか、米原市、滋賀県の

一般職の給与の上昇率などを指標の中に入れるとよいと思う。先ほどから顔が見えないという話であるが、私たちが小さい頃は地域で議員を選出できるように頑張っていた。それが、時代が変わり、議員数も少なくなってきた。地域の自治会で1人選出ということはなくなってきた。これは多様化なので仕方ないと思うが、若い人が議員に出ようと思うと、議員報酬は生活給になってくると思うので、それは検討しなければならないと思う。やはり魅力的な報酬がないと手を挙げる人はいないと思う。また女性の参加という話があったが、全国的には議会を休日や夜間に開催しているところがある。そういったことも検討すると米原市もいろいろな方が選挙に出たいというふうになるのではないかと思う。

委員：皆さんがおっしゃられたように議員と地域の接点が少なく顔を知らない状況もある。昔は地域で選出して、その人に頑張ってもらおうということで接点があった。何かあれば行き来があったが、そういうことが一切なくなって連携することがなくなってきた。出たい人が出るということで、議員と市民でミスマッチが起こっている。何をやっているか分からない状態で議員報酬を上げてほしいと言われても難しい。

資料の中で、県内13市の中で一番低い金額となっていると書かれているが、人口が一番少ないので当然報酬も低くなる。高島市と同等の状況であるので、一番低いというのは適切な状況であると思う。

議員定数と人口の推移であるが、人口が任期ごとに確実に減っている。次の選挙では、また1,000人ほど減ると思う。平成21年から急速に人口が減りつつあり、あわせて確実に高齢化が進んでいる。消費者物価指数が13%上がっているが、人口が減少している中で上げるのはなかなか難しいと思う。

委員：議会は伊吹山テレビで流れているが、昼間なので仕事をしている人はなかなか見られないので、伝わらない部分があるのではないか。

事務局：議会側からの見える化の動きはあるが、市民にそのことが伝わっていないという実感がある。一般質問は、昼間に生放送で流している。これはユーチューブで流しているので、後でも見られる。ウェブサイトでは、日付や質問項目を選んで必要なところだけを見ることができる。ただし、そのことが皆さんに届いてないと、いくら仕組みがあっても見

